

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	コミュニティ・パワー まちづくりプロジェクト2
事業主体 (連絡先)	軽井沢ハルニレ・グリーン・クラブ
事業区分	(5)環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,698,000円 (うち支援金: 4,558,000円)

## 事業内容

脱炭素社会に向けた社会の動きが加速する中、住民一人ひとりの環境意識の向上と、環境取組の具体的なアクションが求められている。それを実現する機運を作るべく、以下取組を実施。尚、当初予定していた自然エネルギー由来の電力切替に向けた電力の共同購買の活動は、一昨年来のエネルギー価格高騰の影響による電力市場や新電力事業者の財務状況の悪化もあり未実施。

- 1) 昨年度の元気づくり支援金で創刊し、昨年度佐久地域に加え上田地域の全小学校に無料配布を拡大した環境情報紙「エコチル長野版」を、本年度も佐久・上田地域で無料配布実施。本年度は地域でトピックとなっている話題を取り上げた記事を増やし、環境問題や自然エネルギーなどの現状や課題等をより身近に分かりやすく理解できるよう工夫、小学生や保護者の環境意識の向上を図った。
- 2) 昨年度から、環境/地域創生活動に積極的に取り組んでいる松本山雅 FC と引き続き連携し、昨年度地域住民やファンサポーターが具体的な環境アクションを起こす取組として企画した、ホームゲームで試合で排出されるCO<sub>2</sub>の量を実質ゼロにする「ゼロカーボン・チャレンジマッチ」の開催を実施に移した。

## 事業効果

- 1) 教育委員会の協力も得て、佐久及び上田地域の全71校の小学校に毎月配布。小学生や保護者の購読率も高く、昨年同様、学校の教員からもSDGs教材として評価が高かった。また生徒による投稿数も伸びてエコチルの認知度も引き続き向上。固定のスポンサーも確保でき、来年度からは4半期に一度発行で自走、継続。
- 2) 松本山雅 FC と連携したゼロ・カーボンチャレンジマッチ企画(“good with YAMAGA”)では、2023年6月27日のホームゲームを「ゼロカーボンチャレンジマッチ」と題して、1試合のホームゲームで発生するCO<sub>2</sub>排出量(平均6,500kg)とそれまでにサポーターのみんなで取り組んだ様々なエコ活動によるCO<sub>2</sub>削減量を相殺し、いかにゼロに近づけるかを地域住民、ファン・サポーターの皆さんと一緒にチャレンジした結果、16,192kgのCO<sub>2</sub>を削減。大きな目標を地域の皆さんと一緒に達成。この企画の後も、マイボトル等のエコ活動が継続しており、活動が根付いている。また本活動は、Jリーグの2024チャレン!(Jリーグ社会連携)AWARDSにもノミネートされている。

## 今後の取り組み

- 1) 環境情報紙エコチル長野版については、来年度は毎月⇒四半期に一度と発行回数は減るものの、固定スポンサー支援の下、引き続き佐久地域・上田地域での小学校への配布を継続的に取組む予定。
- 2) 松本山雅 FC との「ゼロ・カーボンチャレンジマッチ実現」に向けたサポーターを巻き込んだ”good with YAMAGA”の取組については、企画が成功したこともあり、こうした取組みに共感し支援を行うスポンサーの確保など、松本山雅 FC と連携した取組を継続中。
- 3) 自然エネルギー電力への切替促進の取組については、共同購買の仕組みは出来ているものの、電力市場や新電力事業者の動向が厳しく、取組は一旦断念。

## 【地域住民・ファンサポーターへの呼びかけ風景】



## 【目標・ねらい】

- ① 住民一人ひとりの環境への理解と意識の向上
- ② サポーター・コミュニティのチーム愛・結束力を活用した、環境活動への主体的な取組み

## ※自己評価【A】

## 【理由】

- ① エコチルの生徒、及び保護者の購読率が夫々97%, 69%と、昨年度の数値を超えた。
- ② 地域住民やファンサポーターのエコ活動により、1試合のホームゲームで発生するCO<sub>2</sub>発生量(平均6,500kg)を大きく上回るCO<sub>2</sub>削減(16,192kg)を達成

## 【ゼロカーボンチャレンジマッチ目標達成表彰式】



### 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子どもも大人も一緒に考える「食品ロス」
事業主体 (連絡先)	ナカマノコエ
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	542,557円 (うち支援金: 373,000円)

#### 事業内容

長野県屈指の観光地である軽井沢町は、ごみの排出量が県内でもずば抜けて多い。本事業では「食品ロス削減」について SNS を中心に情報発信し、軽井沢町周辺地域の持続可能な暮らしや社会のあり方について考える機会を提供した。

- ・ YouTube 番組制作『食品ロスをまなむ一ふ』11本
- ・ X での情報発信
- ・ 佐久平クリーンセンター施設見学会  
→ 8/1 78名参加 10/30 3名参加
- ・ 学校への自主学习提案
- ・ 消費者に対し食品ロス意識調査の実施  
→ グーグルフォームによるアンケート

#### 事業効果

・ 町内でごみ問題に取り組む団体がいない中、「食品ロス削減」というテーマで活動を打ち出した意味は大きく、YouTube 番組作りを通して、行政・学校・事業者・消費者に対し地域の問題として提起することができた。

- ・ Instagram フォロワー数… 63名→110名 (47名増)  
アカウント名: karuizawa\_food\_cycle
- ・ X フォロワー数… 63名→317名3 (254名増)  
アカウント名: ナカマノコエ
- ・ YouTube チャンネル登録者数… 6名→62名 (56名増)  
アカウント名: ナカマノコエ

#### 今後の取り組み

今年の活動の中で手ごたえがあった「生ごみ堆肥化」についてを軸に、引き続き食品ロスについて情報発信したり、体験の機会を提供したりする。生じてしまった食品ロス(生ごみ)を資源として土に返す堆肥化は、一般家庭でも気軽に行うことができる、循環型の暮らしを身近なものとして実感することができる体験である。今後も「食品ロス」に限らず地域社会がよりよくなるための情報発信を併せて行うことで、団体としての発信力を強めていく。



YouTube 番組『食品ロスをまなむ一ふ』  
<https://www.youtube.com/@nakamanokoe88>

#### 【目標・ねらい】

- ①食品ロス削減に関心を持つ人を増やす。
- ②食品に限らず、「ロスを生まない」サステイナブルなしくみのあるまちづくりについて、関心を持つ人を増やす。

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

「食品ロス」という課題を軽井沢町で発信する新しい市民活動として行政や住民の中で認知されたことはフォロワー数に反映されている。SNS の効果的な活用には改善の余地ありだが、次年度以降も見せ方をブラッシュアップし再利用するなど、有効活用可能な動画等の財産をつくることができた。活動の蓄積(知識・情報・人間関係など)によって今後の見通しが立ったことも大きい。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白樺林の保全を目的としたソーシャルビジネスの基盤構築事業 ～白樺を核とした地域ブランドの普及促進に向けて～
事業主体 (連絡先)	信州白樺クラフト製作所 (立科町芦田八ヶ野 1026)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,074,125 円 (内支援金:853,000 円)

## 事業内容

将来に向けて継続的に美しい景観を維持できるよう、白樺林の保全に向けた循環サイクルの構築および白樺を核とした地域ブランドの普及促進を図るため、下記の取り組みを行なった。

1. 白樺林整備事業
2. 技術開発事業
3. 普及啓蒙事業

## 事業効果

## &lt;目標・ねらい&gt;

1. サステナブルな白樺の森づくりを目的とした整備作業を仲間と共に行い、伐採直後の新鮮な白樺材に触れる体験イベント「収穫祭」を行うことで白樺と地域の関係人口を作る
2. 白樺樹皮細工のつくり手の技術向上を目的とした講習会を通じ、品質と生産性を高める
3. 紙芝居の読み聞かせを通して地域の方に白樺について知ってもらい、関係人口を増やす

## &lt;事業効果&gt;

## 1. 白樺保全事業

白樺林整備活動は東信地区を中心にのべ42名が参加し、95%の満足度を得た。

また、100%の方が次年度以降も参加したいと回答した(回答率74%)

(参加者内訳)

県内：立科町、茅野市、原村、佐久市、佐久穂町、小諸市、軽井沢町、御代田町、東御市

県外：東京、愛知県、埼玉県、群馬県

職業：林業、山小屋勤務、雑貨屋、花屋、木作家、スキンケア作家 等

(参加者の声)

- ・新しいメンバーも増えて、楽しく過ごせました！今後もできる限り協力していきます。
- ・初めて参加させていただきました。あんなに綺麗に樹皮を剥がせたり根っこまで使えることなど、初めて知ることばかりでとても貴重な時間を過ごすことができました。
- ・自然(白樺の木)に、こちらの人間が合わせての時・作業なので、やってみないとわからないことだらけでしたが、お天気にもなんとか恵まれ、大変な中にも感動もあり！また一つありがたい経験ができました。よい材をいただくためには、よい木を育てないと…と、改めて感じました。
- ・長く続けていきましょう

## 2. 技術開発事業

昨年からはじめた3名のつくり手がより難易度の高い作品づくりにチャレンジし、完成させる技術を習得することができた。また、より売れる作品づくりを意識し、クリスマスオーナメントの制作に注力した。つくり手も新たに3名増え、3年間で10名の作り手を育成することができた。

## 3. 普及啓蒙事業

地域の子どもたちに白樺について知ってもらうことを目的とし、県内の小学生および高校生、県外の高校生94名を対象に紙芝居の読み聞かせとクラフトワークショップを行った。また、10月上旬の白樺林のライトアップ実証実験の結果、本事業の普及啓蒙対象者を約100名以上増やすことができた。夏の整備活動および収穫祭の実施により、関係人口が約60名純増した。

## &lt;自己評価&gt; A

- ・白樺林整備事業および普及啓蒙事業により、新たに150名の方に本事業について知り、関わっていただく機会を得た
- ・当所の活動目的に理解・共感いただいた3名の方に新たに白樺樹皮細工のつくり手になっ



(別記様式第12号) (第3の8関係)

ていただき、3年間で10名のつくり手を育成することができた

- 絵本および紙芝居の製作については、子どもたちはもちろんのこと、学校の先生や保護者の方も感謝の言葉をいただいた
- 白樺のライトアップ事業には課題が残るが、景観としてはとてもきれいだったので、継続する方法と場所を検討して続けていきたい

### 今後の取り組み

今後も下記と連携・協働し、白樺を核とした景観の維持および特産品の開発に注力する。

<協力>

立科町産業振興課農林係、長野県林業総合センター、佐久地域振興局林務課、立科町商工会、信州たてしな観光協会、その他近隣の事業者及び地域住民

また、白樺高原の植樹の歴史を知らない若い町民や移住者たちにも知ってもらえるよう、情報の整理・発信をしていく。そして、これから先も町民の宝として白樺林を守り、町民が誇れる活動としていく。



## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯綱山公園プロジェクト “Inspire the Park”
事業主体 (連絡先)	飯綱山公園活性化事業実行委員会 (小諸市菱平 3129)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	8,673,980円 (うち支援金: 5,000,000円)

### 事業内容

飯綱山公園の魅力向上のために、年間を通じて様々なイベントを実施し、特色ある観光地づくりを進めた。イベントは、市民との協働による公園づくりの体制を構築するため、地元住民や小中学生と一緒に実施し、公園づくりに対する市民の意識の醸成を図った。

- ・ワークショップの開催：通年
- ・マルシェの実施：通年
- ・ブドウの苗植え体験：4月8日
- ・公園内の植栽整備：6月9日
- ・夏まつりイベント：8月19日～20日
- ・収穫体験：10月14日
- ・イルミネーションイベント：12月9日～2月29日

### 事業効果

- ①市内の各種団体に加え、地元住民や小中学生などと共にイベントを実施したことで、協働による公園づくりの体制の基礎を構築できた。
- ②長野県内で初となる Park-PFI 施設「スタラス小諸」を舞台として実施したことにより大手メディアからも注目され、様々なメディアを通じ、取組を県内に広く周知することができた。
- ③飯綱山公園の年間観光客入込数（長野県観光統計数値による）の増加について、目標値である10%を大きく上回る77%の増加となり、取組により大きな成果が生まれた。

### 今後の取り組み

今年度は3年間の事業計画の初年度として、市民の公園づくりに対する意識の醸成を行い、また、地元住民や小中学生などと共にイベントを実施したことで、協働による公園づくりの基礎を構築することができた。来年度以降は、今年度のワークショップで生まれたアイデアを具体化し、実施していくとともに、市民が事業により主体的に関われる運営方法を取り、事業の継続性を高めていく。事業の計画や準備の段階から、市民により積極的に関わってもらうとともに、ワークショップや勉強会を多く開催し、公園づくりをより身近なものに感じてもらい、「公園づくりはみんなでするもの」といった意識や、公園への愛着をより深めてもらう。初年度において構築した協働による公園づくりの基礎を発展させ、事業の持続性を確立させていく。



【イルミネーションイベントの様子】

### 【目標・ねらい】

- ①協働による公園づくりの体制の構築
- ②新たな観光スポットとしての確立、知名度の向上
- ③市内外からの観光客の増加

### ※自己評価【A】

#### 【理由】

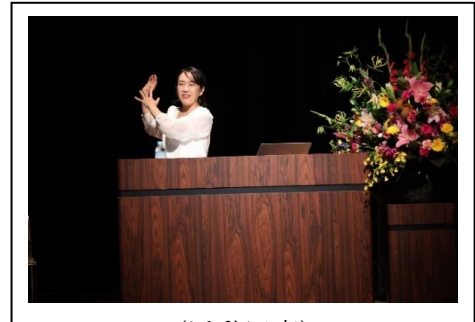
- ・年間観光客入込数が目標よりも60%以上増加した。
- ・取組が多くのメディアに取り上げられたことで、観光スポットとして県内に広く知れ渡った。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「渋沢栄一と第二のふるさと佐久」市民参加による地域観光振興の推進
事業主体 (連絡先)	佐久商工会議所 (電話:0267-62-2520)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,635,999円 (うち支援金:1,890,000円)

### 事業内容

- ① 「渋沢栄一と第二のふるさと佐久」講演会の開催  
※講師に大河ドラマ青天を衝け脚本家大森美香さんを招いた講演会の開催
- ② 渋沢栄一と木内芳軒についてのパンフレット制作
- ③ 渋沢栄一と木内芳軒についてパネル制作展示
- ④ 木内芳軒・渋沢栄一の足跡と佐久の伝統文化を辿る見学ツアー
- ⑤ 地元小学生への学習授業の実施



【大森美香講演会】

### 事業効果

- 渋沢栄一と第二の故郷佐久講演会にて300名を超える市民の参加があり、渋沢栄一と佐久との関係性を多くの方に知ってもらうことに繋がった。
- 上記のようにパンフレット・パネル、見学ツアーにより渋沢栄一の佐久での軌跡を掘り起こしPRすることで、佐久地域の新たな観光資源の一つとして周知に繋がった。
- モニターツアー  
今回モデル的に見学モニターツアーを開催することで、今後着地型観光ツアーのメニューとして商業ベースにのせ、県外からの観光客の誘客につなげられるか検証した。

### 今後の取り組み

本事業実施にあたっては、佐久市観光協会、市民団体「渋沢栄一“第2の故郷”探偵団」・「佐久歴史の道案内の会」等と連携を図り事業実施を推進。  
本事業実施により渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの方々に知っていただくことにより、来年度以降佐久地域の新たな観光振興につなげていく土壌の醸成に繋がった。  
また「渋沢栄一」をキーワードに地域外と連携し、相互交流人口を生むことを目指す。

### 【目標・ねらい】

渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの方々に知っていただくことにより、佐久地域の新たな観光振興につなげていく。

### ※自己評価【A】

### 【理由】

渋沢栄一と木内芳軒との関わり合い、渋沢栄一と信州佐久との関わりを深く調べ広く多くの方々に知っていただくことにより、来年度以降佐久地域の新たな観光振興につなげていく土壌の醸成に繋がった。予定を上回る効果については、当初300名を予定していた講演会について、8月半ばの時点で予約の状況が300名を上回り、予約受付を止めるほどの注目を集めており、来年7月の新紙幣発行で更に注目される渋沢栄一が佐久と大きくかかわっていたことの周知ができたため。



### 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小海線沿線スタンプラリー
事業主体 (連絡先)	小海線沿線地域活性化協議会 (佐久市役所 観光課 観光振興係 電話：0267-62-3285)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,597,750 円 (うち支援金：1,278,000 円)

#### 事業内容

小海線沿線スタンプラリー

【実施時期】 令和5年8月1日から10月31日

【内容】 小海線の全31駅から3ヶ所、17ヶ所の沿線スポットから1ヶ所のスタンプを集め、アンケートに回答することで記念品が贈呈されるスタンプラリー。

スタンプラリーに参加するには、SpotTour という専用のアプリをダウンロードする必要がある。



【SpotTour のトップページ】

#### 【目標・ねらい】

- ①小海線の利用の動機づけ
- ②沿線地域の観光誘客

#### 事業効果

523名の皆様にご参加いただき、記念品については276名の皆様(参加者数のうち、52.8%)にお渡しすることができた。また、アンケートにて「小海線を使ってどんなイベントをしてほしいか」という設問(自由回答)では32名の方が「(今回のような)スタンプラリー」と回答していることから、満足度は高いと考える。加えて、スタンプラリー参加のために小海線を利用した、という回答もあったことから、小海線利用に係る動機づけ、観光誘客のねらいを達成できた。

#### 今後の取り組み

今回のスタンプラリーを土台とし、来年度は、本協議会の一般会員へも参加を呼び掛けることでスタンプスポットを増やし、沿線地域の観光誘客につなげたい。また、スマートフォンを活用したスタンプラリーであることから、本協議会で制作した小海線沿線地域の映像をさらに活用して、沿線地域にお住まいの方にも観光で来訪された方にも広く参加いただけるような導線を作りたい。

**※自己評価【B】**

【理由】  
記念品贈呈者は目標に及ばなかったものの、参加者自体は600名弱となったため、一定の効果があったと考える。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	令和5年度「小諸ワイン」50周年記念事業 ～これからの『小諸ワイン』ブランド化に向けて～
事業主体 (連絡先)	小諸市 (農林課 電話:0267-22-1700)
事業区分	(6) イ 農業の振興と農山村づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,576,000円 (うち支援金:3,660,000円)

### 事業内容

小諸ワインブランド化、地域の機運の醸成のために以下の事業を実施した

- ① 『50th Anniversary』  
KOMORO WINE DAYS 2023 NIGHT
- ② 市民向けワイン講座 (小学生対象)
- ③ ・『50th Anniversary』  
KOMORO WINE BRAND-NEW DAYS 2023 秋  
・『50th Anniversary』  
KOMORO WINE プロモーションイベント



【『50th Anniversary』 KOMORO WINE BRAND-NEW DAYS 2023 秋】

### 【目標・ねらい】

- ① 小諸産ワインを地域住民に浸透
- ② 小諸ワインのブランド化
- ③ 小諸産農産物のPR及び情報発信

### ※自己評価 【A】

#### 【理由】

多くの地域住民に参加いただき、小諸ワインの浸透を図り、その魅力を全国に向けて発信した。信州ブランドイメージの訴求に大きく貢献することができた。

### 事業効果

- ① 『50th Anniversary』  
KOMORO WINE DAYS 2023 NIGHT  
来場者: 約2,000人 (3時間)
- ② 市民向けワイン講座  
参加者: 30名 (親子)
- ③ ・『50th Anniversary』  
KOMORO WINE BRAND-NEW DAYS 2023 秋  
・『50th Anniversary』  
KOMORO WINE プロモーションイベント  
YouTube 配信に伴い、延べ再生回数150万回  
来場者: 約4,000人 (6時間)

### 今後の取り組み

小諸ワイン50周年を迎えた記念として、千曲川ワインバレー特区内のメインイベントとして開催した。一過性の盛り上がりで終わらせることなく、これまで培ってきた関係機関との連携そのものをレガシーとして、「小諸ワイン」を次のフェーズに格上げし、今後も小諸ワインのブランド化を力強く推進していきたい。



## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	水田フナ生産拡大支援事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 (佐久市中込3056番地)
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	185,693円 (うち支援金: 146,000円)

### 事業内容

「水田フナ」は水田での鯉の養殖技術を継承し水田で小鮒を養殖する佐久市の特色ある食文化である。1970年代に付加価値の高い低農薬米の生産とフナの生産が同時に行えることから急速に普及し、産業として発展し依然として佐久の秋の味覚として市場からのニーズがあるが、生産者の高齢化や飼料高騰の影響により生産者が減少し、年々生産量は減少している。

今後、生産者の高齢化がさらに進むことが懸念され、食文化の継承が危ぶまれる中、後継者の育成と食育事業を実施した。

- ・生産者水田で収穫期の小鮒の様子の見学会および小鮒の甘露煮の講習会  
令和5年9月9日
- ・養殖技術研修会の実施  
令和5年4月18日～9月2日
- ・生産状況の実態調査 5月～2月

### 事業効果

- ① 小鮒の勉強会および食育事業を実施し、子供を含む計8名の方に小鮒のいる水田の見学や小鮒の甘露煮の料理講習を行った。
- ② 新たに小鮒を行う2名の方に対して圃場の準備から収穫までの期間を通して、生産者の方から直接アドバイスを行い、生産者の養殖技術の向上に貢献できた。
- ③ 参考になる事例の収集を行ったが農家ごとに圃場環境および養殖方法が多岐にわたり、育成マニュアルの原案作成が難航し、契約事務が遅延したことにより作成できなかった。

### 今後の取り組み

生産者、佐久市農政課、長野県水産試験場佐久支場と協力していきながら、生産者の増加や生産性の向上による生産量の確保と食文化の継承の事業に努めていく。

未利用になってしまっている池の状況や圃場について、引き続き情報の収集を行い後継者が安定的に生産できる環境を整えていく。



【収穫期の小鮒の見学会の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 食文化の継承
- ② 後継者の育成
- ③ 生産拡大

#### ※自己評価【C】

##### 【理由】

- ・子供を含む8名に小鮒の勉強会を通して、食文化の継承を行うことができた。
- ・新規に2名の方が養殖技術研修会を通して小鮒の生産を学び、後継者の育成に貢献できた。
- ・作成予定であったマニュアル作成は圃場環境により育成方法が多岐にわたり、原案作成が難航し、契約事務が遅延したことにより作成できなかった。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	放置竹林を楽しく解決し、佐久広域の森と農の振興を目指す
事業主体 (連絡先)	millplot
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	802,080円 (うち支援金: 617,000円)

### 事業内容

佐久広域地域では、放置竹林の問題が顕在化しており、竹林からの大雨による地滑りや火災の危険性などさまざまな悪影響が指摘されています。そういった放置竹林や環境の問題を身近に感じるため、以下の2種類のイベントを企画・実施しました。

#### 1. 農業や森に親しむためのイベント

竹パウダーの使い方や森林についてのお話会やワークショップ

#### 2. 竹パウダー、竹炭の製造体験イベント

実際の放置竹林でパウダーや竹炭の製造体験と、使い方のレクチャーなど



【竹炭作成体験イベントの様子】

### 【目標・ねらい】

- ① 地域の自然環境に親しみ、興味を持つ人を増やす
- ② 竹炭やパウダーの認知度向上
- ③ SNSの登録者を増やす

### 事業効果

1. イベント実施により、自分の暮らす地域の環境に興味を持ってもらう機会となった。
2. 参加者が作成した竹炭等を持ち帰って使用してもらいSNS等で発信を求めた。また自作のパンフレット等を配布し、認知度向上に務めることができた。
3. フェイスブックページのフォロワー数 100名突破 (2024年2月末時点で117名)  
いいね数83名と合わせると、200名突破を達成

### ※自己評価【A】

#### 【理由】

- ・東信広域(佐久・小諸・御代田・軽井沢)でイベントを実施でき、多くの参加者が集まった。
- ・地域の放置竹林や森と農業など、環境問題に関心をもってもらうことができた。

### 今後の取り組み

放置竹林や環境の問題は、今後も続いていく地域の課題です。その一方、竹炭・竹パウダーは農業用の肥料や家畜の飼料としての利用が可能で、昨今の燃料・飼料高や地産地消の観点からも注目が集まっています。本年度に引き続き、来年以降もイベント実施や放置竹林を活用した竹炭・竹パウダー製造を継続することにより、啓蒙を続けていきます。本年度は、昨年よりもイベント参加者やSNSフォロワーは増加しています。今後も地道に活動していくことにより、徐々に地域の放置竹林への関心を高めていきたいと考えております。

## 令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第2回軽井沢青年会議所ふれあい市
事業主体 (連絡先)	一般社団法人軽井沢青年会議所 (電話:0267-46-1445)
事業区分	(6) エ 商業の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	612,696円 (内支援金:428,000円)

### 事業内容

御代田町・軽井沢町は近年、多くの方が移住されてきているが、移住した方達がこの地域を知ることができる事業が少ないので地域の魅力を知る事業として御代田町龍神の杜公園でキッチンカーや地元のお店、子供達のためのダンスステージを開催しました。

当日は飲食店24店舗、販売系店舗12店舗の合計36店舗、ダンスチームやバンド系3組が集い、来場者も1500人きていただきイベントは大盛況でした。

・2023年10月22日(日) AM7:00~PM18:00

第2回軽井沢青年会議所ふれあい市

参加員数:約1,500人

出店店舗:36店舗 ステージ参加者:3組

### 事業効果

- ①支援金を活用して、当団体のみで事業を行えた。
- ②多くの参加者の方に、毎年やってほしいとの声をいただいた。
- ③前年より参加員数は減る見込みと予想していたが、前年度より多くの来場をいただけたことにより、地域間の交流の場を創作できた。
- ④地元にもこのようなイベントがあるとイメージつけることができた。
- ⑤地域の魅力を多くの人に認知していただくことができた。

### 今後の取り組み

- ・今後も、活動圏域である御代田町・軽井沢町においてこのような事業を行っていき、地域の活性化・地域の魅力の場の創作を行う。
- ・この地域に住み続けたいと思う事業を頻繁に行っていく。
- ・地域住民の方や他団体等も巻き込み、協力して大きなイベントを実施していけるように活動を行っていきたい。
- ・子供たちが将来的にこの地域に戻ってきて活動したいと思えるようにしていきたい。



【活動写真】

### 【目標・ねらい】

- ① 地元の活性化
- ② 地域住民の交流の場
- ③ 地域の魅力の創作

### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ・前年度より来場者数が増えたこと。
- ・来場者から今後も続けてほしいと言われたこと。
- ・地元の交流の場を創作できたこと。